

3. 司会挨拶

【総合司会】

福岡県保健医療介護部薬務課 課長補佐 友田 薫

皆さま、こんにちは。定刻となりましたので、ただいまより第 22 回福岡県合同輸血療法委員会を開催させていただきます。

私は本日司会を務めさせていただきます福岡県保健医療介護部薬務課の友田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

開会に当たりまして、福岡県合同輸血療法委員会におきまして代表世話人を務めます福岡大学病院輸血部長、熊川みどりより開会のご挨拶を申し上げます。

4. 開会挨拶

福岡県合同輸血療法委員会代表世話人

(福岡大学病院輸血部) 熊川 みどり

皆さま、こんにちは。代表世話人を務めております熊川です。この合同輸血療法委員会は今年で 22 回目ということで、今までは輸血使用量が多い施設 126 施設を対象に毎年アンケートを行って、年 1 回集まっているいろいろな問題点を検討しまして、皆さまの施設の輸血医療の適正化を図ってまいりました。実際、福岡県では 600 施設近くが輸血療法に携わっているということで、小中規模の病院の方々の輸血適正化も大事な問題であるということで、3 年前から輸血医療の支援策の取り組みを始めたところです。

一昨年からは研修会、そういう小さな施設では臨床検査技師の方、看護師の方が輸血の第一線で携わっておられるということで、福岡県赤十字血液センターと協力して、そういう施設への研修会というのを、年に 1 回の会と別に複数回開催しているところです。

そしてこの年 1 回の合同会議も、昨年からは福岡県で輸血療法をされている全ての施設にご案内を差し上げて、昨年、今年と参加していただく方が増えてきているところです。今年の第 22 回は、規模が大規模から中規模の病院、今までの活動で輸血体制というのはだいたい整っていると思いますが、このあとお話しをいたします I & A という外部監査の仕組みを日本輸血・細胞治療学会が行っていますので、そういうものを活用してまた各施設での輸血医療の充実を図っていただきたいという意図で、今回それについての活躍されている先生方のご発表をお願いしているところです。

第 2 部が定例のアンケート、第 3 部が福岡県赤十字血液センターの松崎所長に今後の輸血医療についてのお話をいただけるということで、私もそれを楽しみにしております。

以上のような会の内容を皆さまにご聴講いただいて、今後また各施設での輸血医療の充実をしていただきたいと思います。

以上をもちまして、開会のあいさつに代えさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

5. 挨拶

【司会】

続きまして、福岡県保健医療介護部医監、白石博昭よりごあいさつ申し上げます。

福岡県保健医療介護部 医監 白石 博昭

皆さん、こんにちは。保健医療介護部医監をしております白石と申します。今日はお忙しい中、第 22 回になります福岡県合同輸血療法委員会にご参加いただきまして、ありがとうございます。まずは各医療機関の皆さまにおかれましては、血液製剤の使用適正化に関するアンケートについてご報告いただけるとお聞きしております。重ねて感謝申し上げます。

たまたま昨日まで県庁でも献血がありまして、冬は血液が足りないという館内放送で、私もちょうど献血を昨日したのですけれども、カードを見ると 40 回まではいきませんが 36 回ぐらい、まだまだ献血ができるまでしっかりと協力をしていきたいと思っております。

この献血された血液を血液製剤として安定的に供給するということですので、輸血用血液の確保につきましては、献血事業と適正使用の双方の推進が欠かせないということでもあります。国のほうでも輸血療法の実施に関する指針、それから血液製剤の使用指針に基づいて、輸血療法および血液製剤の使用適正化を推進しているところであります。

本県では県内の安全かつ適正な輸血療法の向上を図ることを目的に、平成 9 年、全国に先駆けて福岡県合同輸血療法委員会を設置しております。そこで情報交換会や研修会を実施するなどして、血液製剤の適正使用に向けたさまざまな取り組みが行われているところであります。

また、九州各県合同輸血療法委員会関係者会を活用いたしまして、九州各県の安全かつ適正輸血療法の向上のために、医療関係団体の皆さまと日本赤十字社および県の連携強化に取り組んでいるところであります。

本日のテーマの 1 つであります輸血医療機関における輸血療法委員会設置支援につきましては、先ほど申し上げました国の指針においても院内における輸血管理体制のあり方の 1 つとして推奨されているところであります。県では福岡県赤十字血液センターと連携しまして、行政機関が実施する医療安全対策研修会を活用しまして、血液製剤の管理体制について周知を行っているところであります。

近年、ご承知のとおり高齢化の伸展に伴いまして、がん治療などで輸血用血液製剤を必要とする方が増える一方で、将来の輸血を支える若年層の人口は年々減少傾向にありまして、若年層の献血者の確保が重要な課題となっております。県としましては、引き続きボランティアの皆さんをはじめとしまして、日本赤十字社、市町村と協力いたしまして、献血運動の一層の推進を図ってまいります。本日お集まりの皆さまにおかれましては、善意により寄せられた血液製剤がより効果・効率的に患者さんの回復に生かされますよう、ご理解、ご協力をお願いいたします。

最後になりますが、本日の委員会が皆さま方の今後の血液製剤の使用適正化推進の一助となりますことを祈念いたしまして、あいさつとさせていただきます。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

【司会】

続きまして、福岡県赤十字血液センター所長、松崎浩史よりごあいさつを申し上げます。

福岡県赤十字血液センター 所長 松崎 浩史

皆さま、明けましておめでとうございますというには時期がずれておりますけれども、今年もお集まりいただきありがとうございます。

平日のお昼ということで、たくさん来ていただけるかどうか心配しておりましたが、このように多くの方にお集まりいただき、良い勉強会ができるだろうと思っております。

今日、最後にお話をさせていただきますけれども、福岡には600の輸血実施施設があります。今年はその方々に合同輸血療法委員会に来ていただけるよう、ご案内をいたしました。新しい試みであると思います。輸血医療は輸血を実施するすべての病院で考えていかないといけない問題だと思っておりますので、今後とも皆様のご協力、ご理解をいただきながら事業を進めていき、患者さんにより良い方向になるよう考えていきたいと思っております。

本日はお集まりいただきありがとうございました。今日は良い勉強の機会になりますように祈念しております。

【司会】

ここで福岡県合同輸血療法委員会世話人の皆さまをご紹介します。世話人の皆さまはその場でご起立いただけますでしょうか。

世話人にご就任いただいておりますのは、皆さまのお手元にお配りしております世話人会名簿のとおり、15団体の皆さま方です。なお、本日、産業医科大学病院さま、福岡県医師会さま、福岡県病院薬剤師会さまにつきましては、本日、所用により欠席されております。

世話人の皆さま、どうぞご着席ください。

それでは講演に先立ちまして、お手元の資料の確認をさせていただきます。（資料確認）